

第3回香川県大阪・関西万博推進協議会 議事録

令和6年2月14日(水)14:00~16:00

香川県庁本館 21階特別会議室

○ 事務局（政策課長）

ただいまより、第3回香川県大阪・関西万博推進協議会を開催いたします。
開会にあたりまして、本協議会会長の池田知事より御挨拶を申し上げます。

○ 池田知事

第3回香川県大阪・関西万博推進協議会の開催にあたり、皆様方には大変お忙しい中、御出席を賜り、誠にありがとうございます。また、皆様方には、日頃から県勢の発展のために、それぞれのお立場で御尽力をいただいております、心から感謝を申し上げます。

県内でも、大阪・関西万博の公式キャラクター「ミヤクミヤク」をポスターやデジタルサイネージなどで目にする機会も増えたような気がします。会員の皆様におかれましては、機運醸成に向けて取り組んでいただいております、改めて感謝申し上げます。

大阪・関西万博の開幕まで、あと1年と2か月となっています。そのような中、県では、万博会場で実施を予定している自治体催事及びテーマウィークの企画や準備、県内でのプレイベントの実施のほか、誘客対策、県内の受入環境の整備や万博関連イベントの実施準備などを進めていきたいと考えています。

なお、後ほど事務局から説明申し上げますが、香川県の自治体催事については、4月30日から5月3日の4日間、テーマウィークについては、9月26日から9月29日の4日間、それぞれ出展できる方向で調整いただいておりますとお聞きしていますので、それを見据えてしっかり取り組んでいかなければならないと実感しています。

本日も、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会から堺井局長に御出席をいただきました。堺井局長には、万博の最新状況などについて、後ほど御説明いただきます。

その後、県そして市町、関係団体の皆様様が様々に御準備いただいた内容を含めて改訂された県版のアクションプランについて説明し、更なる取組みの充実を目指して、今日は限られた時間ですが、たくさん建設的な御意見をいただければと思います。

万博に向けて、引き続き御協力をお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

○ 事務局（政策課長）

続きまして、第2回の協議会以降、人事異動などによる交代がありましたので、新たに会員に御就任いただいた方を御紹介いたします。

一般社団法人日本旅行業協会中四国支部香川地区委員会、濱田委員長様です。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、議事に移ります。以降の議事進行につきまして、会長の池田知事、よろしくお願いたします。

○ 池田知事

それでは、堺井局長より、最近の準備状況等、最新情報の御説明をお願いします。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

資料 1 をご覧ください。万博の最新情報ということで 1 ページ目、12 月 25 日時点の会場建設の様子です。

今日が 2 月 14 日ですので、2 ヶ月弱経っていますが、今の段階で、大屋根のリングが世界最大級木造建築と言われています。幅 30 メートルで 1 周 2 キロ、そして高さ外側が 20 メートル、内側が 12 メートルという形ですが、おおかた半分は完成しています。

こうした中にパビリオンが建ちますが、3 つの工区に分かれており、このリングをちょうど 3 等分にしたような形のそれぞれの範囲を各事業者が順調に建築を進めています。

海外パビリオンについては、土地を提供してそこに建てていただく形式です。こちらについては、この 1 月、2 月、今後もあります。起工式が続々と行われていて、どんどん発表されて、海外のパビリオンの建設についても、認可も次々出てきているため、会場は、来年 4 月に間に合うという形になっています。

50 ほどの独自パビリオンが自らデザインして建設しますが、そのうち 35、6 が、成立していて、順次手続きに入って建設が始まっていきます。

残りの 10 いくつについて、現在鋭意調整を図っているところです。

パビリオンによって、大きさがそれぞれ異なりますので、建設の工期が違ってきますが、昨今の資材や人の確保の困難さもここに表れていますが、スムーズに工事がなされるよう関係各方面で、経済産業省、国土交通省、外務省、あと博覧会協会の方でも取り組んでいます。

建設の方はそういう形で進んできていて、目標的に、今年の 10 月末あたりを目途に建設を終え、そのあと内装・展示という形で進んでいくことを目標としていますが、若干のフレキシビリティはある中で進めています。

あわせて、会場における資材高騰、費用についての増額の報道もなされています。会場建設費は国・自治体・経済界と 1 対 1 対 1 で負担するという話があり、これは当初から 1.9 倍という形で増えているところ。1,850 億円になるという話になっています。最近では運営費を発表していますが、運営費についても、チケット収入と、あと若干のミャクミャクなどのライセンス収入その他の収入をベースに考えていくことになっていて、そもそも予算がない中で、1,000 億近い運営費をかけながら、良いものにしていくことをやっています。それについても、目途を立てて、その費用を超えない形で賄っていくということでやっています。

万博は、建物を建てたら終わりというわけではありません。博覧会協会の職員 800 人が、今、それぞれ対応していますが、2820 万人のお客様が、大体毎日 20 万人ぐらいのお客様が来られるということ、そして安全に、自然災害、様々なことが起こり得る中ですが、安全に楽しんでいただくことをしっかりやっていくための体制を順次整えています。

す。

交通のアクセスにしても、食べるもの、買うもの、また、本当に楽しんでもいただくために、そして、次世代の若者たちにしっかりと感動をもたらすような万博にしていくということに取り組んでいて、これについては順調にスケジュールをこなしてやっている形です。

そういったソフト面の話も非常に大事だと思っております、それらも含めて万博について、2025年4月に開催できるように進めています。

報道では、いろんなネガティブな話も出ているのを承知していますが、そういう中でも、前売りチケットを買って欲しいという話をしている。しかし、開催までまだ先であり、チケットを買ってもすぐにそこに行って楽しめない中、万博って、どれだけすごいことをやるのか、楽しいわくわくすることをやるかということ、表現することの難しさにも直面しながら、日々取り組んでいます。

そうした中で、香川県の取組み、先ほど知事から御紹介ありましたが、自治体催事、あるいはテーマウィークの日取りなども決まり、進めていけるという体制になってきますので、そうすると、いかにこの万博という機会を捉えて、香川県への誘客や、香川県としてのブランド価値を高めていき、万博を活用するということについて、ますます本格的に導入をしていただいて良い時期になってきていると思っております。

万博が延期するのではないかと、無くなるんじゃないかと、そういう話に惑わされず、万博を活用することを考えたときに、今、手を抜いていると後で、残念な思いをするということにもなりかねないです。

そういったことも含めて、積極的な対応で臨んでいただければ嬉しく思いますし、そういう期待に答える万博をやりたいと、誓わしていただくところです。

3ページ目、先ほど知事から自治体催事、テーマウィークの御紹介があったように、どんどん進めています。

4ページ目、一般参加催事についても、今年の12月31日までの4ヶ月間の募集で514件の企画の応募がありました。こちらについては、愛・地球博と比べて2倍ほどの申し出となっています。現在審査中で、今年の4月あたりに内定を予定しております。一部の催事施設では2次募集も開始します。多くの方が参加できますので、これによって「自分も万博に出るんだ」という方々が全国的にも出てくる良いきっかけにもなるかなと思っています。機運醸成に努めていく中では、こういった万博への参加を自分事にさせていただく方を、いかに増やしていくかというのも非常に大事なものだと思っていますので、これだけ応募があったということは非常に嬉しいことと思っています。

5ページ目、こうした催事施設の概要が形で発表されていて、また、一部の施設の愛称の公募も実施しています。

6ページ目、観光のポータルサイトについて、こちらは、この万博で誘客していくための非常に強力なツールとして考えていただきたいと思います。博覧会協会の方でポータルサイトを用意してそこに商品を通じ、旅行商品を通じて買っていただくというためのものです。前回の協議会の際にも予告させていただきましたが、今年の4月から会期終了後まで、サイトをオープンしていきます。このサイトに載せる商品、旅行商品と

しては、資料に記載していますが、万博のテーマと親和性のあるような商品で、満足度の高い高付加価値を持つ商品でSDGsに関連した工夫が行われた商品などを考えています。日本語・英語・中国語（簡体字・繁体字）・韓国語の多言語表記により行い、この申請を受け付けるのを、1月11日からスタートしました。

7ページ目、もう少し具体的には、このトラベルガイドの中に、体験したいような商品が並び、また、地域のイベントカレンダーなども並んで見せていく形になります。魅力的な動画もどんどん入れていこうと思っています。こうしたところで体験したい事柄を入れると、それに関する商品が出てきて、希望の日にその商品を購入してその地域に行けるといったものを展開します。ここに香川の魅力あるコンテンツを、是非ともたくさん申請いただいて誘客につなげていただきたいと思いますと思っています。

こういったポータルサイトを作り、多方面で海外を中心に発信をしていこうとしています。JNTO（日本政府観光局）を通じたものや、海外の旅行代理店のネットワークにも掲載するなど、様々な方法で提供していきます。

9ページ目、博覧会協会と大阪府、大阪市が連携しながら、ボランティアの募集開始をしています。会場内と会場外で1万人ずつという形で募集しているところです。こういった形での参加もお待ちしているところです。

また、開幕500日前イベントを、チケット発売開始となる11月30日に開催をしました。東京・名古屋・大阪主要都市3ヶ所でイベントを実施し、その他のところも含めて展開しています。

岸田総理のビデオメッセージ始め、前売り券の発売開始、芸能人やプロデューサーのトークセッションなどを実施しています。

次の11ページ目、2023年の10月から12月、ちょうどその500日前をPRの重点期間として各種PRツールを協会で作っておりました。関係自治体、経済団体、企業の皆様については、様々な形でPRや掲出について御協力をいただいたところです。特に、香川県におかれては、先ほど知事の言葉にもありましたが、県が取りまとめをして、協議会の会員の皆様に配布や会員の皆さんにも積極的に掲出に御協力いただいて大変感謝をしております。このように県を挙げて御協力いただいているケースは全国でもほとんどございませんので、本当に香川県の取組みについては、ありがたいと思っております。

今後も節目で協会からPRや掲出の依頼をさせていただきたいと思っておりますが、引き続き御協力をお願いできたらと思っております。

最後のページには、内閣官房においても万博を契機とした万博参加国と、既存の交流の活性化あるいは新たな取組みを通じた地域の子供たちの育成や地域の魅力発信など自治体による国際的な交流を目的としたプログラムを実施しています。昨年度、今年度はモデル事業として、ちょうど29自治体の取組みを支援しており、来年度は、令和5年度補正の事業と来年度の地方交付税の措置の2つに分かれて、交流対象国や交付額も異なる形で、数多く募集をするというふうに伺っています。支援対象となるものは子どもや地域住民が万博参加国と交流が行われる取組みです。自治体からの一時登録は2月29日までとなっていますが、以降定期的に申請を受け付けていくというように伺って

います。このような事業も国の方でも実施をしています。

今日はアップデートという形で御紹介させていただきましたが、香川県さんの取組み、まだまだ新しいことを入れていくこともできると思います。自治体催事、テーマウィークも日にちが決まったところがございますので、内容についてどんどん素晴らしいものにされていくことを期待しております。

博覧会協会としては、どういうインパクトが良いかということ、万博に来られたお客様に、特に海外からのお客様が中心になるかもしれませんが、香川県に来ていただいて、香川県の良さを楽しんでいただくということに繋がるのが、まさに実のある話になるかと思えます。

こうした取組み通じて、万博があったからこういう動きがなされ、また、それが万博以降も継続していくということを、我々も願っておりますし、そのような形で取り組んでいただくということが、非常に良いかと思えます。

こうした取組みを最大限発揮していただける形で、我々も万博という場所を、しっかりと提供させていただき、また、連携しながらそういった成果が出るというなと思っております。

少し長くなりましたが、御紹介とさせていただきます。

○ 池田知事

ありがとうございました。

それでは、堺井局長の御説明に、御質問や御意見がありましたら、お願いします。佐藤様、お願いします。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

先ほど、局長の方から、本当に丁寧に御説明いただき、本当よくわかりました。しかしながら現在、我々の周りでは、メディアやSNS等で、万博が実際、本当に大丈夫だろうかというマイナスの意見やイメージがあります。

それを是非もっと強く強く博覧会協会の方から、強いアナウンスで払拭していただきたい。本当に皆さんが、自信を持ってやっているんだという姿勢を、最終的にどうなるかわからないにしても、やはり今の時点で自信を持っておるということを、もっともっとPRしていただくべきだと思っています。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

どうもありがとうございます。

御指摘のとおり、特に大変な事態として1月の能登半島地震があり、またその復興が急がれる中で、万博をやっている場合かというような話も出ており、なかなかそこは答えづらいところがありますが、実際に、復興に必要なものと、万博に必要なものは段取りも違い、影響をどれほど及ぼしてしまうのかが不明確です。復興は非常に大事であることはもちろんのこと、万博をやめたら復興に対する対応できるのかと言うと必ずしも

そうでない場合もある中で、万博の価値について強く申し上げたいとも思うが、状況を考慮しながら考えたい。やはり国のイベントとしての位置付けがある中で、各関係者に対し丁寧に慎重に発言しながら進めていくことが重要だと思います。

その中で、万博がいかに素晴らしいものになるかどうかは、これは蓋を開けてみたら、まさに来られた方の印象でそれが証明されるものだと思います。それに向けて、例えば民間のパビリオンに出られる方も最高の準備をしていますし、関係者や海外の国も最高の準備を進めている中で、コロナが明けた最初の万博として、日本で開催して本当に良かったと言えるような価値のあるものを創ろうと関係者は取り組んでいます。空振ってしまうかもしれませんが、そういった声をしっかりと出して、万博の意義を訴え続けることが、まさに大事だと思います。

こういった形で、強く払拭していくことが、万博に参加いただける皆様に対する我々からの御礼かと思っておりますので、しっかりと強い気持ちで、自信を持ってしっかりやっていきたいと思っております。

○ **一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）**

意地悪な質問をして、申し訳ありませんでした。ただ本当に、我々経済同友会も、万博を後押ししようと、機運を盛り上げようと本当に頑張っておりますので、そのためにも、博覧会協会に中心になっていただき、我々がフォローできるような体制をとっていただければ、一層の機運醸成につながると思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

○ **公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長**

ありがとうございます。しっかりやらせていただきたいと思います。

○ **池田知事**

ありがとうございました。

それでは次に、事務局から、自治体催事、テーマウィーク、県版アクションプラン等について説明をお願いします。堺井局長におかれては、質疑対応等、引き続きよろしくをお願いします。

○ **新池政策部長**

皆様方におかれましては、大阪・関西万博への取組みに日頃から御協力いただき誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、議題 1 及び議題 2 につきまして、説明いたします。

まず議題 1、自治体催事、テーマウィークですが、資料 2、自治体催事の企画概要をご覧ください。

1 ページ目、自治体催事は、都道府県などが万博会場内で行う催し物、行事です。この催事の開催に当たりましては、1 ページにありますとおり、コンセプトとして、豊かで美しい自然、豊かな食文化、伝統文化、現代アートといった本県の魅力を、古と現代、

未来を体感できる演出を加えた発信を行いたいと考えており、2 ページ目、その概要として、先ほど知事からも報告しました本県の自治体催事の開催については、会期序盤の令和7年4月30日から5月3日の4日間、出展できる方向で万博協会において調整をいただいています。

催事の名称については、未定と記載していますが、前回の協議会でもお話したとおり、公募で決定したいということで、本県の魅力や特性を象徴的に表現したものになりたいと思っています。公募のスケジュールは、夏前ごろに募集を開始し、秋には決定、公表という予定を考えています。

3 ページ目、この自治体催事を使用する施設は、EXPOメッセという名称で、外観それからその中のイメージは3 ページのとおりです。面積2,000 m²ありますが、これを3分割して3つの自治体で同時に使うことになっており、本県への割り当ては、3つの自治体が仮に共同ステージを設置したら360 m²と専用面積が減りますが、特に共同のスペースを作らなければ、600 m²が予定されております。この会場の特別会議室が270 m²ですので、600 m²といえばこの部屋の2倍強というようなイメージになるかと思えます。それからこの施設の利用時間としては9時から21時の12時間でイベントができることになっています。

4 ページ目、この展示場を活用して、国内外からの来場者に香川県の魅力をまとめて発信する予定で、さぬきうどんをはじめとする食の他、伝統芸能、伝統的工芸品などをコンテンツとして、本県の魅力の効果的な発信、来場者との交流ができるような企画とする予定です。

4 ページ右下に、バーチャル空間を活用した情報発信も検討すると記載していますが、今回の大阪・関西万博では、万博史上初の試みとして、オンライン空間上に仮想空間の夢洲会場が再現され、参加者はアバターという自分の分身を介してバーチャル会場を散策したり、各出展者が展開するバーチャル空間で仮想体験ができる仕組みが設けられます。

これを契機として県でも、初の試みとして予算を今回計上して、観光地などを実際に訪れて歩いたり、アクティビティに参加したかのような体験ができるような空間を作り、それをできるだけ活用していきたいと考えています。

以降5 ページから11 ページに記載している内容は前回でも説明していますので、今回は割愛します。

次に資料3のテーマウィークの企画概要について、1 ページ目、テーマウィークは、地球的規模の課題に関するテーマが設定され、その解決策を探るという万博ならではの壮大な取組みで、万博協会から示されている8つのテーマがあり、このうち、本県の場合は「地球の未来と生物多様性ウィーク」において本県の里海づくりなどの取組みを、展示や体験を通じて発信するという予定です。

2 ページ目、テーマウィークについては、令和7年の9月26日から、29日の4日間で調整をいただいているところで、このテーマウィークで使用する施設は、ギャラリーWESTという名称です。3 ページの通り、広さが600 m²で、200 m²と100 m²の2つの屋内展示場に、300 m²ほどの屋外展示スペースを備えた施設です。9時から21時の12時間

が施設の利用時間として設定されています。

4 ページ目、瀬戸内海の多島美や豊かな自然や文化を来場する方に訴求する映像を新たに制作するというので、これも来年度予算の中で組み込んでおり、会場で映像を見た人が実際に本県に来訪したくなるような臨場感ある印象的な視覚体験となるよう、上映方法も検討しています。

5 ページ目、海ごみアート作品を制作するパフォーマンスやワークショップ等を通じて、来場者が参加体験し、楽しみながら香川の環境問題への取組みを理解していただくという内容にしたいと思っております。

ここまで自治体催事、テーマウィークの企画概要を説明したところですが、万博という世界が注目する場所で、本県の魅力を発信できるチャンスであることから、今紹介した内容では、県としても目玉企画が不足していると感じていますので、今後、目玉となるような企画を、専門の事業者からの提案も受け付け、また、皆様方からもアイデアをいただきながら考えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

催事及びテーマウィークについては、本番の令和7年度の実施に向けまして、来年度から本格的に企画準備に着手するというので、予算はこれから提案しますが、年度内に委託事業者を選定しまして、令和6年度当初から即動けるよう、作業を進めていく予定ですので、御協力方よろしくお願いいたします。

続いて議題2の県版アクションプラン第2版について、御説明いたします。資料4、今回お示しする第2版につきましては、前回の協議会で初版を取りまとめたところですが、その後、協議会の各委員の取組みをより具体的に記載する、あるいは、新しい事業も追加しています。

このうち県関係事業については、先日令和6年度当初予算案の内容発表したところで、県の各事業には予算額を表記しています。

万博を契機に本県の地域活性化を目指して新たに取組む事業を固め、大阪・関西万博関連準備事業とし、合計で来年度予算としましては2億1,500万円余を計上しています。

また、初版では、県と7つの市町、7つの会員の合計34事業の取組みを掲載していました。

今回の2版では、県と8つの市町、8会員の計47事業ということで新たに13事業が増えており、内容の更新拡充が図られています。

1 ページ目、このアクションプランは、大阪・関西万博の開催効果を将来に向けて最大限享受できるようにするために、県内の関係者が相互の取組みに係る情報や計画を共有し、連携を図るために策定するものですので、本県の魅力・強みを万博会場内外でアピールする情報発信と、インバウンドを含めた誘客促進交流イベントの開催などによる交流拡大、この2つに力点を置いて取り組んでいくこととし、この体系に沿って整理して万博の会期前から会期中にかけて取り組んでいく内容をまとめています。

以降、各事業について説明します。4 ページ目、5 ページ目は、先ほどの議題1で説明した催事、テーマウィークですので、説明は割愛します。

7 ページ目、次回の瀬戸内国際芸術祭 2025 ですが、万博と同時開催でもあり、今ま

での 12 の島と 2 つの港に加え、新たに香川県沿岸部の 3 つの市町が会場に加わり、過去最大のエリアで開催するという特徴もありますので、公式サイト SNS からの情報発信を十分に万博と連携した発信に努めていく内容です。

8 ページ目、万博を契機とした本県への誘客拡大につなげていくためには、万博解禁前からの戦略的な情報発信が重要であるということで、県の公式観光サイト「うどん県旅ネット」、公式 SNS やメディアの活用により、情報発信を継続していきます。特に本年は、瀬戸内海国立公園指定 90 周年ですので、瀬戸内海の素晴らしさを発信体験してもらい記念事業を実施しますので、瀬戸内海への関心が一層高まるように来年の万博開催年につなげていきたいと考えています。

9 ページ目、各種情報発信の広報ですが、これは県のホームページによる万博関連の事業に関する広報などを掲載しています。

10 ページ目、瀬戸内海歴史民俗資料館の魅力を発信するため、新たにドローン撮影した動画等を活用した広報を行い、令和 7 年度には 1970 年の大阪万博にちなんだ展示も企画したいと考えています。

11 ページ目、東かがわ市の取組みで、これは万博首長連合と連携し、地元の食材を活用した「万博弁当」を作り、東かがわ市の魅力を国内外に発信するもので、この取組みは先般メディアでも取り上げられました。

12 ページ目、宇多津町の取組みで、インバウンド誘客を目的とした多言語による観光情報の発信、町の魅力を PR する動画の制作・発信を行うものです。

14 ページ目、観光誘客の促進という括りで、近年は個人旅行のニーズが高まっていることから、インターネット上で商品の販売等を行う OTA（オンライントラベルエージェント）が持つデータを商品造成・情報発信に活用する取組みを行い、大手旅行会社とも連携し、アート・島旅など旅行トレンドのテーマを組み込んだ万博のテーマに合った特別感のあるツアーコンテンツ造成・販売をすることで、周遊型、滞在型旅行商品のプロモーション等に取り組むものです。

15 ページ目、兵庫県と連携した両県をめぐる旅行商品の造成販売に取り組むもので、本県での滞在時間を延ばし観光消費を拡大するため、宿泊と SDGs などのテーマ性のある体験コンテンツをセットにした旅行商品のほか、直島、豊島などをコースに組み込んだ周遊型旅行商品、ジャンボフェリーなどの船を組み込んだ旅行商品の造成・販売などを行うものです。

16 ページ目、万博を契機に、日本を訪れるインバウンド、特に欧米豪からの誘客のため、首都圏や関西圏での空港等でのデジタルサイネージを活用した情報発信のほか、SNS や万博ポータルサイトを活用した誘客に取り組むものです。

17 ページ目、高松空港と直行便が就航している東アジアを中心とした、国・地域からの誘客を図るものです。

18 ページ目、本県を訪れる観光客の長期滞在、観光消費の拡大を目的として、市町観光協会、民間事業者が県内各市町の地域資源を活用して、新たな観光コンテンツの造成やイベントを企画するための支援を行うものです。

19 ページ目、神戸市、高松市、土庄町、小豆島町の連携による神戸・小豆島・高松ル

ートでの旅行商品の造成販売。20 ページ目は、さぬき市による万博のテーマに沿った旅行商品の造成を行うものです。

21 ページ目、小豆島町での海外からの富裕層をターゲットとした食と観光に特化した新商品と新サービスの開発、22 ページ目は、JATA（日本旅行業会）中四国支部香川地区委員会におきまして、チャーター線を使った旅行商品造成やそのための実証事業の実施などを企画するものです。

24 ページ目、県産品等の販路拡大という括りで、今年の秋頃と万博会期中の阪急の梅田駅構内で、期間限定の香川県アンテナショップを開設し、さぬきうどん、県産品コンクールで受賞した商品、県内での人気のスイーツなど販売するものです。

25 ページ目、令和6年度、7年度に、関西圏の外資系ホテルのレストランなどで県産食材を活用したメニューを提供する香川フェアを実施するものです。

26 ページ目、栗林公園にあるアンテナショップ香川物産館栗林庵を買い物がしやすいレイアウトへの変更など、全面リニューアルを令和7年2月頃に行い、伝統工芸品地場産品の香川の逸品を見せるコーナーを充実させ、多くのお客様をお迎えしようとするもの。

27 ページ目、香川県商工会議所連合会の取組みとして、小規模事業者等の関西圏における販路開拓の取組みの支援を行うものです。

29 ページ以降は県内での万博関連イベントを開催するという括りで、本県と離島の魅力を発信する「せとうち島フェスタ」を万博関連イベントとして実施し、離島の歴史文化を発信して、島へ足を運ぶきっかけとすることで交流の拡大を図るもの。

30 ページ目、毎月第3日曜日にサンポート高松で開催している「さぬきマルシェ」を、万博にちなんで、県産食材を使用した世界の料理や加工品を提供するなど内容を充実して実施するもの。

31 ページ目、食の大博覧会と題して、讃岐うどんのほか、県産食材・グルメが一堂に集まるイベントを、万博開幕直前にオープンする新県立アリーナなどを候補地として、岡山県と連携して開催するものです。

32 ページ目、さぬき棚田20選に選ばれている美しい棚田を令和6年度、7年度に青と赤と白の万博カラーでライトアップイベントを行い、棚田の美しい景観の発信、保全活動に繋げるもの。33 ページ目、チームEXPO2025にも登録している善通寺市のデジタルを活用した交流イベント、デジフェスの開催。34 ページは、CRASSO 実行委員会による東かがわ市の手袋や革製品の職人との交流などを行うファクトリーツーリズムを実施するものです。

35 ページ、36 ページは、宇多津町での夏秋のイベント、37 ページ、38 ページは多度津町内での花火や桜の時期のイベントにおいて万博の要素を加えて実施するもの。39 ページはSANUKIリミックスといったイベントなどで香川の盆栽などの伝統工芸品についてそれぞれ万博の要素を加えた企画として、拡大開催などを予定しているところ

です。
41 ページ目、交通アクセス対策ですが、来場者や県民の皆様の利便性等を向上するというので、会場と本県を結ぶ高速バスの万博会場への乗り入れについては、万博協会

からの情報収集を行うとともに、万博協会による会場への乗り入れに係る事業者への意向調査が行われるタイミングでの県内の高速バス事業者への乗り入れの検討を促すなど、働きかけを続けていこうとするものです。

43 ページ目以降は受入環境の向上です。今年3月にオープンされますJR高松駅新駅ビルの高松ORUNEに、現在高松駅構内にある外国人観光案内所を移転設置して多言語での観光案内を行うもの。44 ページ目、栗林公園において無料Wi-Fi環境の整備拡充、キャッシュレス決済端末の導入、海外オンラインチケットの販売などを進めるもの。45 ページ目は東山魁夷瀬戸内美術館において、リーフレットの多言語対応、キャッシュレス化を行うとともに、開館20周年の節目を迎える令和7年の特別展の開催準備記念グッズの製作を進めるものです。

46 ページ目、世界中で進んでいるキャッシュレス化が万博会場でも本格導入さることから、県内でも多くの外国人観光客が利用する高松空港を発着する高松空港リムジンバスにおけるクレジットカードのタッチ決済端末の導入を進めるものです。

47 ページ目、県内の農泊やグリーンツーリズム、体験施設の受け入れ環境の整備や、インバウンドの受け入れも見据えた情報発信を行うもの。48 ページ目、東かがわ市における観光資源ものづくり工場、飲食を周遊するための環境整備を行うもの。

続いて50 ページからは県内への新技術の導入促進で、万博での運行が計画されております空飛ぶクルマについて、県内での実現に向けた環境整備を図るため民間企業が行う県内での実証実験や調査検討等にかかる助成支援を行うとともに、県民や地域社会の理解促進につなげる取組みを行うもの。51 ページ目、東かがわ市において、IoTを活用したカキ養殖による新たなお土産物の開発などを行うもの。

次は教育活動への活用ということで53 ページ目、県内の小中学校、高校、特別支援学校等が修学旅行や校外学習等の学校教育活動により、万博に参加することを支援する事業を新たに創設するもので、入場チケット料の全額を補助する他、交通費の実費2分の1、上限10万円を補助するなどの、支援を行うものです。

55 ページ目からは、香川経済同友会、四国経済連合会、四国経済産業局における万博に向けた気運醸成の取組みです。

60 ページ目、ANTA（全国旅行業会香川県支部）の県民を対象とした万博見学ツアー商品の造成販売の取組みを掲載しています。

以上がアクションプランの説明ですが、この県版アクションプランは、協議会の会員の取組みを、「見える化」して相互の連携を図ることに役立つ趣旨で作成したものですので、今後も適宜、柔軟に見直して更新もしていくこととしています。

特に市町の中でも、まだ当初予算が外部に打ち出されていない市町がほとんどですので、そのあたりについては今後、公表された後、更新していきたいと考えています。

各会員の皆様方におかれましては、このアクションプランに掲載された事業を着実に進めていただきますとともに、現時点でプランにない新たな事業も、前向きに御検討いただき、プランに反映していきたいというふうに考えておりますので、よろしく願います。

次に、資料5、香川県の機運醸成に向けた取組みです。

機運醸成につきましては、特出しで、これまでの取組み、今後の予定を説明させていただきます。

前回の協議会において、県内の機運を高めるために、万博公式キャラクターのミャクミャクを県内のあちこちで登場してもらうことや万博のポスターを駅や各施設で積極的に掲出するのが効果的ではないかという御意見をいただいたことから、それらを踏まえて本県における気運醸成の取組み、それから今後の予定について説明します。

これまでの取組みとして、1ページ目、先月の21日、万博の目玉事業の1つである空飛ぶクルマの実物機体の展示イベントを、サンポート高松のデックスガレリアで開催しました。

この日、雨模様の中、1日で2,000人ももの来場があり、万博協会のスタッフの方の御協力もいただき、ミャクミャクとともに来場者に対してチラシを配るなどして万博のPRを行ったところです。

2ページ目、昨年の11月30日の開幕500日前に合わせ、県内企業、県内の自治体担当者向けの香川SDGs講演会の開催、それから県公式SNSでの発信を行いました。

また、会員の皆様の御協力を得て、関連施設でのポスターの掲示やデジタルサイネージでの動画放映なども行っており、3ページにその1例を紹介しております。皆様方に改めて御礼申し上げますとともに引き続きよろしくお願いたします。

4ページ目、今後の気運醸成の取組みとして、次は、開幕まで400日前という節目が、来月3月9日の土曜日になります。この日にサンポート高松の高松シンボルトワーに、高さが120メートル、横幅5メートルのライティングウォールという電光パネルがありますが、ここを青白赤のいわゆる万博カラーのライトアップをしようということで、この日に点灯セレモニーを行い、ミャクミャクや県内のゆるキャラによる観覧者とのフォトセッションなんかを予定する、ちょっとしたイベントの開催を予定しております。

この万博カラーでの、シンボルトワーのライトアップは、4月以降も、節目ごとに、1週間程度掲示していきたいと考えています。

5ページ目、2月5日には、池田知事と万博のテーマ事業のプロデューサー、ジャズピアニストでもあり数学研究者でもあります、中島さち子氏による対談を行い、中島氏が企画を進めておりますパビリオン「命の遊び場クラゲ館」についてや、香川県の大阪・関西万博に向けた取組みなどについて、意見交換を実施し、この内容については3月に四国新聞に掲載される予定です。

7ページ目、その他多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で、大阪万博とその先の未来に挑むみんなが作る参加プログラムであるチームEXPO2025への登録の働きかけも継続しており、8ページにあります。県内では小豆島ブランド実行委員会のジオ・フード構想とか2030年に向けた小豆島と食と観光の新プランの取組み、これとITキャンプ善通寺の体験型イベント「デジフェス」の取組みが新たにこのチームEXPO2025に登録されていますので、御紹介します。

また、堺井局長からも御説明いただきました。民間による一般参加催事への参加は、第一次募集は去年の9月から12月に申し込み期間があって今年の4月に内定します。このエントリーの中には、香川県内の団体もあると聞いています。4月に1次募集の内

定があり、それから、先ほど御説明あった今年の5月からは2次募集も予定されるということですので、まだ今後も協議会会員の皆様に加えまして関係者の皆様も、参加するチャンスがありますので、積極的な参加検討をお願いしたいと思います。

万博の開幕までもう1年2ヶ月ということになっております。万博を契機に瀬戸内海の地域、香川県が注目を集めるというチャンスを生かし、先ほども堺井局長から万博を活用してくれというお言葉いただいておりますが、本県の魅力を国内外に発信して多くの方が本県を訪れることで、地域活性化につなげられるよう、1年余りでしっかりと準備を進めて参りたいと思っておりますので、引き続き皆様方の御理解と御協力をお願いしまして、説明を終わります。

○ 池田知事

ありがとうございました。

今説明があったことや、それに関連するどんなことでも結構ですので、御意見いただければと思います。港様、お願いします。

○ 香川県農業協同組合中央会 港代表理事会長

会場のことで堺井局長にお伺いします。入場ゲートから会場へのアクセスやバスをチャーターして乗入れる場合の駐車位置などを教えていただけますか。

併せて、資料で確認できる地図において会場はどこからどこまでになるのかも教えていただきたい。

○ 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

資料2の2ページをご覧ください。ゲートは東と西の2つあり、2箇所あります。西ゲートのあたりに交通ターミナルがあり、こちらがバスをつけることができますようになります。ターミナルがあつて、その向こうにバスの待機場、バス駐車場となっており、こちらで観光バスなどを待つていただくことになります。

○ 香川県農業協同組合中央会 港代表理事会長

一般の車などは乗り入れできるのでしょうか。

○ 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

一般の車は入れないようにしています。一般の車は入れませんが、関係車両は入ることができます。バスでたくさんの人を連れて来ていただく場合は、西ゲートのところに着くことになります。

○ 香川県農業協同組合中央会 港代表理事会長

地図上の右側のスペースは何に活用されるスペースでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

右側は、現在も商用利用しているコンテナヤードです。地図上の小さな点は、置いているコンテナのイメージになります。

また、追加的に申し上げますと、リングのちょうど左上あたりのグリーンのところがありますが、こちらは I R 予定地として使うのかどうかは、まだ決まっていますが、万博のために少し I R の準備を待っていただくという可能性もあろうかと思っています。

○ 池田知事

ありがとうございます。

そうすると、I R 予定地を駐車場で使うとなると、ここにマイカーが入ってくる可能性がありますか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

I R のところを駐車場にするかは未定ですが、ただ自家用車は、夢洲の会場には入れないようにしようとしています。

隣の舞洲が橋を渡った向こう側にありますが、そこには駐車場を作る予定にしている、そこからパークアンドライドで来ていただくという形と、あと尼崎と堺に大きな駐車場を設けます。そこは、自家用車が入ってくる形になります。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、佐藤様、お願いします。

○ 一般社団法人香川経済同友会 佐藤代表幹事（香川県大阪・関西万博推進協議会副会長）

香川県の、これだけのプロジェクトを作っているのは、本当に御苦労だったと思います。本当に素晴らしいものだと思います。

ただ、瀬戸芸のときもそうですが、おそらく万博はこの 5 年 10 年ほどの間の中で一番大きな人が集まるイベントになると思います。その中で一番大切なのは何かと言えば、これだけの香川県の PR もしくは香川県のイベントの仕組みをつくるのであれば、これだけで終わらず、この万博を生かすことを考えないといけないと思います。

そのためには何が欲しいかと言えば、実際このイベントに、どんなお客さんが、どこから何人程度来て、何が受けたのかといったようなマーケティングのデータが一番価値あるものだと思います。ですから、そういうものを集めていただきたいと思っています。

2 つ目は、個人的なことになりますが、私が小学校 6 年生のときに修学旅行で大阪万博に行きました。今でもそうですが、僕らの世代は本当に同窓会で集まったら、あの時の万博の話ばかりします。それだけ修学旅行や遠足などで、大きなイベントに行くということは、子どもにとってすごく意味があるし、また、すごく思い出になると思います。

ですから、その意味では、子どもさんを本当に大切にしておいて、もっともっと万博を見せてあげる機会を増やせば、これがゆくゆくまわりまわって本当に香川県のためになると思っていますので、よろしくお願ひします。

○ 新池政策部長

御意見ありがとうございます。

1つ目の、御指摘のとおり、一過性に終わらせたのでは何にもなりませんので、万博を1つの契機として、その後、ずっと繋がっていくということを我々も意識しております。どこからどういう人がどういう移動していき、香川県に来たとかいうデータ、そのあたりの分析は、いろいろ考えて、それを確実に以降に生かしていく、また、受入れ体制も様々な取組みを擬態的に予算案としていますが、これは何も万博のみ、瀬戸芸のときのみという事ではなく、これらを契機に以降にも長く本県に来ていただくための環境整備を今回やろうとしておりますので、御指摘の通り、以降に繋がるようにいたします。

もう1点の次世代を担う子どもたちに万博会場に行ってもらい、様々なことを学んでいただくことは、非常に大事なことです。教育委員会の予算案として、小中学校、高校生などが学校行事として万博に行く場合については、入場料を全額補助する。加えて交通費上限額の範囲でも半額補助するといった助成制度を創設する予定ですので、この助成制度を十分活用していただき、たくさんの小中高校生に万博に行っていただきたいと考えております。

○ 池田知事

はい。子どもの関係では、先日香川県で開催したG7香川・高松都市大臣会合の時に、G7給食というものを県内でやって、すごく関心が高かったので、今回も給食をやろうという事ではないですが、学校方面へのアプローチを、修学旅行への助成以外にも、それぞれ県や市町などが協力して追加していくと、佐藤副会長の御発言のとおり、思い出に残るものになるかなと思うので、お願ひしたいと思ひます。

続いて、小幡様、お願ひします。

○ 高松空港株式会社 小幡代表取締役社長

先ほどマーケティングの話が出たので、堺井局長にお聞きします。万博への来場者の目標があると思ひますが、ターゲットにしている国やエリア、あるいは年代などはどういうところをお考えなんでしょうか。あるいはプロモーションやPR活動をどういう国、エリアで中心的に実施する計画か教えていただけますでしょうか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

過去の傾向では、今まではアジアの方が日本に来る比率が多かったですが、万博のときには、欧米豪、今までそこまで比率が高くなかった国の方々が来られる傾向があります。

そうした期待しながら、JNTO（日本政府観光局）などと連携して、海外への発信

を積極的に行っています。万博には2,820万人が来場する想定の中で、海外の方が350万人来場する想定をしています。

具体的に国・エリアについては、これまでの通常の国とは違うという認識はしていますが、どの国から何人ぐらい訪れるかという細かな数字を持っているわけではなく、万博を期に2025年には日本に来てもらおうということのキャンペーンを、JNTOが実施していきますので、歩調を合わせながら連携していこうと思っています。

年代については、海外の方は特にどの年代にというふうにターゲットを絞っている訳ではないので、詳しい話はできないかなと思っています。

日本人であれば、想定来場者は絞りやすいですが、海外の方についてのターゲット・国・エリアなどは特に示していない形で進んでおります。

○ 高松空港株式会社 小幡代表取締役社長

ありがとうございました。

もう1点、アクションプランを拝見し、すごく盛りだくさん本当によくここまで準備というか、作られたなと思って本当に来年楽しみだなと思いますが、仮に万博以外の年でも、瀬戸芸の開催年、あるいは来年新県立アリーナもできる年に当たるので、たまたま万博が重なっているから、万博効果も得よう、あるいは万博にこちらから送客もできようかという相乗効果を狙うという事だと思いますが、仮に万博がなかったとしても、瀬戸芸の開催年に良い案を作っていたらいいなと思いましたが、これから1年間かけて中身を詰めていくのだと思いますが、是非そのターゲット、すごく万博に対しては欧米豪という言葉をあちこちで聞きますが、欧米豪の方にも来て貰えるとももちろん良いですけども、実際大勢来るのは、やっぱり東アジアだとか、あるいは東南アジアの方々も含めてというところもあるかなと思いますので、そのあたり少し、どのエリアの方々が、インバウンドの場合は、どこをターゲットにしていくかということこれから考慮されたうえで、最終的な詰めをやっていただきたいと思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて、国東様、お願いします。

○ 香川県中小企業団体中央会 国東会長

堺井局長にお尋ねしますが、世界最大の大屋根リング。凄い構造、大規模なものだと思いますが、これはただ見るだけじゃなくて、具体的にどのように活用されるのでしょうか。

それから、終わった後の話ですが、どのように有効活用、利用をお考えでしょうか。

○ 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

このリングは、上に登れるようにしようと思っています。リングの上から見る眺望として空と海が一体となった景色を見ることができます。また、リング上には植栽を置いたり、あるいは特に夜なんかは、リング上から水上ショーを見られるとか、花火・ドロ

ーンショーが見られるといったことを検討しています。

また、屋根の下は、暑さを和らげる屋根の効果を期待して、通路とすることを考えています。

このリングの内側にパビリオンが配置されますが、リングの側からパビリオンに入るというような、スタイルのところが多く設定をされています。

屋根で少し日差しを和らぎ、そこから各パビリオンに入って行く、またリングに戻って行く、そういう動線が期待されるかと思えます。

リングの上には、エレベーターやエスカレーターなどを使って、登れるようにしようとしています。

リングの終わった後のリユースも考えていて、引き取り手をどのようにするかは検討中です。全部自分のところに置きたいという話もあつたりしますが、それは現実的ではないと考え、部分的にそのままの形のものを動かすか、あるいはミニチュアを作るような形でやるか、あるいは一部分だけをどこかに置くか、いろんなスタイルで今検討している段階です。いろんな形での利用方法を考えていて、木材で作りますので、すべてリユースできることを期待しながら、今最終調整をしております。

○ 池田知事

ありがとうございます。続いて上田様、お願いします。

○ 香川大学 上田学長

まず1つは、少しネガティブなイメージがあつたりしている中で、開催の意義や、わくわく感みたいなものが十分に一般に伝わってないところがあるのかなと思つています。

それで、目玉は何かなということですが、アクションプランの情報発信のところを見ても、ミyakミyakはかなり宣伝効果も強くて良いと思つますし、それから空飛ぶクルマの展示イベントで多くの人が見に来たという事も良かったと思つますが、今後、さらにその情報発信を強めていこうとしたときには、もっとこうみんなが、これがあるから行ってみたいと思うような、例えば世界的に有名なアーティストが来るとか、あるいは、まだ誰も見たことがないような新しいテクノロジーとか、そういうのが経験できるとか、なにかみんなが行ってみたいと思うような、そういうものが出てこない、なかなか情報発信も強くならないかなと少し思つました。

それと、もう1つ県の方ですが、様々な取組みを考えておられて素晴らしいなと思つました。特に瀬戸内海の価値や、海の課題解決に向けた取組みをメインに押し出しておられるところは、本当に素晴らしいなと思つました。香川大学が重点的に研究や地域連携等を考えているテーマと合いますし、また御協力できることがあればなと思つております。以上です。

○ 池田知事

ありがとうございます。1つ目の御意見について、堺局長からお願いできますでしょ

うか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

はい、御指摘のように、わくわく感があるような、これがあるから行こうというようなもの、これは非常に大事だと思っています。

今回、「いのち輝く未来社会のデザイン」というのが、テーマになります。

SDGs に向けた、2030 年の達成年、その 5 年前ということで、それに向けた取組み期間中にある万博になるわけですね。

そういった形で、地球環境問題、持続可能な地球を維持するためにこういう技術を活用していくのだというところ、例えばエネルギーの話、水素社会とかそういったものを、しっかり最先端のものを出していき、これをやれば、持続可能な地球ということが維持できるのだなという、そんな取組みを随所に出していくことや、テクノロジー、空飛ぶクルマもそうですが、本当に空飛ぶクルマが飛ぶようになるような社会をイメージする、そんな仕掛けもたくさん計画しています。

目玉が重要だという議論をよくしていただきますし、博覧会協会としても何を目玉とするかという話をよく言いますが、過去の万博なんかでは、例えば愛知万博では冷凍マンモスという形で、あれは地球環境問題に対する、非常に意識させるものとして有名なものがありました。あと、月の石。1970 年大阪万博の目玉と言われたりします。70 年大阪万博の太陽の塔は目玉というか、ハードレガシーとして残っているという、そんな話もあります。

そういったところ、我々万博のテーマを非常に大事にしていて、それを各国が集まって、テーマに向けた処方箋を見せ合うというところから、やはり今の時代、持続可能な地球をどう作っていくかっていうところの様々な取組みが出てきます。それは目玉という言い方ができないかもしれませんが、非常に教育効果もあるし、わくわくする、これだけたくさんの 160 カ国が参加して、そういったテーマに基づく問題意識をこのように出していく。それで、各国が意識の共有化をして、それぞれのところにそれを持ち帰って、社会実践をしていくと、良い形になると思います。

月の石もアメリカが出してくれた話ですが、それぞれの国が、やはりこの時代、こういう形で、自分の国が考えていることを見せていくっていうもの集合体である万博は、全体が目玉になるだろうと思います。わくわくしていただけるものになるのかなと思います。

こういう話だと不十分かもしれませんが、個別に例えば水素社会を迎えるときにはこういうふうになるとか、個別にはたくさん用意する予定です。未来の都市を体験する未来の生活、未来のヘルスケア、未来の食、そういったものを体験するコーナーを作っていくので、まさにそれらを次世代の方に、しっかり見ていただけるようなものを用意していきたいと思っています。

今から目玉がこれだと言って、それで集客するということも本当に大事だとは思いますが、今はなかなか難しい。例えば、日本の民間パビリオンが出展します。彼らは、自ら手を挙げて出てきますが、30 億円、50 億円といったコストがかかる中で、まさにや

ろうとして出てこられる企業が 13 あります。そちらはもう会社の将来、この未来社会に向けて、自分の会社はこういうふうにするんだということを、本当にチャレンジをして出展していただきます。そういった民間パビリオンが 13 もありますし、万博協会、8 人のプロデューサーが命をテーマに、それぞれの分野で最先端を走っている方々が、パビリオン作って、またイベントやって、皆さんに見てもらおうとしています。これらは、かなり期待いただけるようなものかなと思います。

有名なアーティストが出るのと同じように、それぞれ、そういった出展者は自分の命を、プライドをかけて臨みますので、期待できるものが集まってきます。それに各国のパビリオンもそういった形でチャレンジをしてくれる、それも万博の魅力であると思います。

そうは言っても、ネガティブな報道もある中で、対抗力はまだまだないのかなと思っていますので、様々な形で、発信していきたいと思っています。

○ 香川大学 上田学長

ありがとうございました。

ただ様々にやりますとか、いっぱいやりますとか、凄いですって言っても、それでは情報発信ってやっぱりできないと思います。

例えば私どもの大学でも、総合大学です。なんでも学べます。何でも研究しています。では大学の PR になりません。

だからやっぱりその中であえて目玉を、いくつか選んで、それから割と短い、2、3 行で表現できるようなキャッチフレーズとか、そういうものを考え出すことを宣伝戦略としています。そして、県なども、そういうものを利用して、県内で PR できるようなものがないと、レベルは凄いですとか見てもらえばわかりますとか、世界中から来ます、民間もいっぱい来ていますっていうだけでは、それで結局何をどうしたいのかということとは、やっぱり伝わりにくいと思うので、それだけ素晴らしい内容があるのだったら、もう少し工夫の仕方もあるかなというふうに思いました。

少し出過ぎたことを言ったかもしれません。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

おっしゃる通りだと思います。頑張って、出せるものが見えた時に、それを効果的に SNS で発信するなども含めて効果的な手段で出したいと思います。

ですが、なかなか我々主催者がハンドリングしているところと、その他の民間のパビリオンの方々の、会社の命をかけてやられるところ、なかなかその情報をいただくことができなかったりもする中で、御指摘のとおり、発信の工夫をしっかりとすべきということとは、その通りだと思っています。

○ 池田知事

愛知万博のときに名古屋にいましたが、あの時にミストのカーテンみたいな、霧吹きみたいな空間が带状にできて、1 回はそこを通ってみたいと思って私も行きましたが、

あれ以降、街中でもミストシャワーみたいなものが夏の季節に増えてきたように思います。万博が契機になったのではないかなと思いますので、そういう今まで見たことのない空間みたいなものというのも、万博の売りなるのではないかななんてあの時も思いまして、先ほど国東会員からリングの機能の御質問がありましたが、あれは一周2キロとかなりインパクトのある空間であり、見栄えであると思いますので、そういったものをどう発信するのかということもあるかと思いました。

続いて、三矢様、お願いします。

**○ 公益社団法人香川県観光協会 兼 香川県ホテル旅館生活衛生同業組合 三矢会長
兼 理事長**

様々な意見が出ておりますが、この人の流れを整理してみますと、万博があって、それから、世界があって、我々から見ると、香川県が万博と完全にシンクロするであろう瀬戸芸、新県立アリーナオープンなどの事業、そういったものがあって、3つの形ができて上がりますね。

まず私が一番陳情的に訴えたいのは、今日も旅行業の香川県の支部長さんとか、中四国の方も来られていますけど、佐藤さんも、知事も言われましたが、若い人にやっぱり、若いうちに新しい未知の世界を体験してもらいたい。私も、若いときに大阪万博行きまして、いまだにやっぱり頭に出てきます。非常に思い出があります。やっぱりそういうふうな思い出を作ってあげるといようなことが、万博では非常に重要な部分じゃないかなと思います。これは香川県から出ていくこと、教育委員会の方でも、極力推薦をしていただきたいと思います。

それからもう1つ、いかに万博経由で香川県に人を集めるかということで、先日県の各部局にもいろいろと聞いて参りました。どういうところにプッシュすれば、万博経由で香川県に来てくれるかなということ。やはり一番大きいのは、JNTOです。万博に向けた香川県への観光誘客に向けて、積極的な連携を促すよう働きかけて参りたい。

それから、香川アンバサダー制度というのがあり、かつて県の国際課に勤めておられた方でフランスに帰られた女性もおります。そういうふうな人や香川とかつて繋がりがあった人が、アンバサダーになられて盛んに香川県のPRをしていただけたところ、あるいは県人会もありますし、それから海外の姉妹都市という友好協定を結んでるところがたくさんあります。そういったところにも万博に来るときには、是非香川県にも寄ってくださいとお伝えすると、来てくれると思います。

それから、香川県はレップと言いまして、台湾や韓国、香港、バンコクなどに、PRマンを置いております。そういう人たちにもう一度お願いし、2025年には香川県への旅行をPRして欲しいということもやれば、海外から万博に訪れる人でそのまま帰る人は少ないと思うので、どこか他にも行くと思います。そうすると香川県にも来てくれるということで、これまでのいろいろな繋がりが生きてくるということを、先日より考えておまして、県の部長方にも相談を持ちかけたりしておりました。

是非ひとつ、これまでに積み上げた、日本対海外の関係、地域対地域、企業対企業もありますし、そういったものを生かすべく、せっかくの機会ですので、私も動いていま

すが、観光業界としても是非やりたいと思いますので、御支援ひとつよろしく皆さんお願いします。

○ 池田知事

たくさんの方まで築いてきている御縁のあるJNTO、香川アンバサダー、姉妹都市、レップ、いろんな御提案ありましたので、そういうところで特にPRをするようにしていただければと思います。ありがとうございます。

続いて、佐伯様、お願いします。

○ 四国経済連合会 佐伯会長

冒頭、堺井局長から御説明がありましたが、博覧会協会で、いろいろなアゲインストの風がある中で御尽力いただいていることに敬意を表しますとともに、香川県の方では、私は思うに、こんなに自治体でこの大阪・関西万博に関して努力されている県は他にないのではないかなと思っています。

それで、思いつきレベルではありますが、お話を聞いていて思ったことを少しお話しします。

1つ目、万博に関しては、地震があったり、資材高騰があったりして、経費の高騰があるということで、アゲインストの風が吹いていて、マスコミは、何か万博のことを取り上げるとなるとすぐ万博の是非の話であったり、延期するべきではないかなど、そんな話しか出てこないように思います。

今はニュースなどでも何となく暗い話が多い中で、明るい話はあるかなと思っていて、ニュースを見ていて明るい話と言えば、大谷選手の話くらいしかない。

そういった中で、万博は非常に明るい話なので、そういった位置付けから考えると、一部の慎重論があったりする中で、博覧会協会を含め全体が受け身、守りに入っているようなところが、無きにしもあらずのように私は感じてしまいます。万博は夢を与えたりか明るさを与えたりかといった意味で、もっと攻めのスタンスで臨んだらいいかなというふうに思います。

それで何をするのかということは、前回も申し上げましたし上田委員から先ほどご指摘もありましたが、わくわくするものがこれほどあるという素材を見せてあげることが非常に大事なかなというふうに思います。マスコミに対しては、SNSもそうですが、地上波に対してもコマーシャルなどPRするようなネタを出して、こういったネタがありますということを発信することも考えられる。例えば民間企業も、万博全体がうまくいかない投資したもののリターンがないわけですから、そのあたりもよくわかってもらって、それを滲み出さずとも、海外から来るパビリオンの方も、どんなものを用意してくるのかをリサーチをして、絶対良いものがたくさんあるはずなので、そのあたりをしっかりとメディアを通じてPRするなど逆手にとってメディアにポジティブなニュースを発信してもらうようなことを是非やられたら良いのではないかなと思っています。

2つ目、香川県でやっておられる自治体催事に関しては、先程、新池政策部長の説明

では目玉が足りないとお話もありましたが、大変失礼ながら私も含めてですが、昭和時代に生まれた人たちが何か知恵出しても、なかなか良い知恵が出てこないし、ある程度枠にはまったようなことになってしまわざるを得ないので、私はよく四国経済連合でレポートを出したときも、割と若い人たちに自分で足を運んでいろいろ話を聞くといったこともやりました。今週末は丸亀で高校生が取材してやるイベントに行きますが、あぁいった若い子にヒアリングするような形でアイデアを出してもらおうようなことをすればいいのではないかと思います。先ほどネーミングの公募の話もありましたが、そういったものに引っかけてアイデアを出してもらおうということもできるのではないかと。それもペーパーではなく、お忙しいので難しいと思うが、なるべくヒアリングなどをすれば、良いアイデアがたくさん出るかどうかわかりませんが、やられたら良いのではないかなと思っていました。

2つ目は、テーマウィークに関してですが、映像でやるのは非常に重要だと思います。よく聞いているのは岐阜県の今年観光客がぐっと増えたのは、有名な方が映像を構成して作ったものがすごくインパクトがあったというふうに聞いていますが、これは是非やられたらいいと思います。

協議会の資料だけで見ると、現状をPRすることと、環境についてこれからこういうふうに環境保全していくといったことを発信するように見受けられるが、今回のテーマは未来社会なので、この瀬戸内の海、島々が、未来社会においては、こんなふうに素敵などころに、もう一段変わっていく、バーチャルの映像など、どなたかプロの方に手伝ってもらって、作り込むっていうようなことも考えてみたらどうかと思います。

最後に、観光に関しては、是非このチャンスを生かしたらと思いますが、先ほどお話がありました、一過性にしたら絶対にもったいない。かなり予算を使うわけですから、そういった意味で言うと、後に残っていくものをしっかり頭に置くべき。景色なんかを理由に、もう一度お越しになる方っていうのは、いないかもしれないと思うので、再来者があるように仕掛けるためには、やはり体験型の観光コンテンツというのをしっかり作り込んでいくことが大事かなというふうに思っていて、そういった意味で、今回の万博に絡めた観光振興の予算措置については有効に活用されるようにやっていかれたらというふうに私は思います。

○ 池田知事

ありがとうございます。いろいろ意見いただきました。

最初の情報発信やメディアで関係で堺井局長からお願いできますか。

○ 公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会 堺井担当局長

はい。本当になるほどと思う話でございます、ありがとうございます。

メディアを逆に使いながら、ポジティブな明るい話をどんどん出していくと。結構メディアの方は、万博を別に批判するだけをやりたいのではなくて、良い情報が入ってこないから、逆にそういうのは出せなくて批判すべき情報みたいな慎重な話しか出ないのだということをおっしゃるメディアもいらっしゃるのも事実です。

そういった方々に対して、本当にポジティブな明るくわくわくするような情報を入れていくということ、あるいは、もう自らのSNS他、自らの情報発信に努めていくということも併せてやっていくのかなと思いました。

依然としてメディアの力は大きいですし、メディアの方々も、本当にそういうポジティブな話を求めているってということがあったりするので、そういったことをしっかりやっていきたいなと思います。ありがとうございます。

○ 池田知事

はい。あとは催事とかテーマウィーク、観光戦略等々、たくさん貴重な意見いただきましたけれども、何か決意表明などありますか。

○ 新池政策部長

貴重な御意見いただきまして、特に、目玉に関しまして、今の内容ではやはり、先ほどの万博協会のレベルではありませんが、香川県なりに、何か目玉としてこれだったら人が来るといったものを展示するか見せるかということは、今も悩んでいますが、それについて若い人のアイデア出しという観点から、ヒアリングしたらどうかという御意見は、確かに若い人からは我々とは違うアイデアが出て参りますので、そのあたりは実際、聞いていきたいと思います。

それからテーマウィークの映像。これは未来社会のバーチャルというのがございます。1つは仮想空間、バーチャル的なものを今回つくるようにはしています。それともう1つは瀬戸内海を非常に美しく見せるなどがありましたので、佐伯委員の御指摘を踏まえ、未来がこれだけ素晴らしいものになるようなのを、何らかの表現ができないか、今後決定する委託業者などとも相談しながら、工夫を十分していきたいと思いました。

それから体験型コンテンツ、これは重要ですので、交流推進部と連携しながら、十分これまでも作っていますので、万博、それからさらにそれがレガシーとして残るように、体験型コンテンツというの、新たなものを考えていきたいと思いました。

○ 池田知事

ありがとうございます。

続いて、谷川様、お願いします。

○ 香川県町村会 谷川会長（宇多津町長）

様々な意見をいただいて、本当に嬉しいなと思っています。自治体の催事等々について、今参加を表明しておるのがかなり多くありまして、町村会の方でも多く参加するようにしています。いろんなお話がありましたが、今はアバウトな状態がかなり多いと思います。

ですから、目玉になるものとか、またいろんな御意見がありましたが、それを確定ができるのはどの時期になるのか。

催事に関して質問しますと、展示の面積、360 m²から 600 m²と、具体的に言いますと

倍と半分の大きさがあります。そうすると、やはりこれから企画や用意をしていく中で、やはり倍と半分になると、用意もかなり違ってくると思います。

ですから、そういうところについて、確定するのはどの時期になるのか。いろんな面で確定をするのがどの時期になるのかというのが、知りたいなと思ったところです。

○ 藤倉政策課長

現段階で確定しているものではございませんが、今後、業者の方の選定を進めて、協議などを進めていく中で、また、先に御説明いたしました、メッセを3団体で共有して活用していくということになっておりますので、残りの2団体が判明したら、その辺りも詰めていくということになろうかと思っております。

いずれにしても、いただきました御意見でございますので、早々に固められるように進めていきたいというふうに思っております。

今の段階で、「いつ」というのが申し上げられずに申し訳ございませんが、そのように考えております。

○ 香川県町村会 谷川会長（宇多津町長）

はい。ありがとうございます。

○ 池田知事

続いて、細谷様、お願いします。

○ 全日本空輸株式会社高松支店 細谷高松支店長

私も今日ここに参加させていただいている自分の意義を考えながら、皆さんの発言を聞いていました。

大阪・関西万博への航空会社としての関わり方というのは、東京の本社も含めてだと思っておりますが、私は今、この香川におりますので、万博と香川、四国の間、そのあたりをお客様がどうやって回っていくのかシミュレーションもしながら、いい形で、私の方からも、会社の方に色々な提案をしていけるように、情報を集めていきたいと思っております。

あとは、今日はネガティブな話も多く出ていましたが、世論は変えていけるものだと思います。ここにいるメンバーの方々と、ポジティブな世論がつかれるように、考えて行動していくのが私どもの役目かと思っています。

その上では、先ほど御発言があったように、何かポジティブになる材料などがあれば、随時共有していただくことで、県内でのそういうポジティブな世論構築に、私たちも何とか協力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

あともう1点、先ほどレガシーの話が出ていましたが、やっぱり太陽の塔の大阪万博ってというのが、万博という頭には浮かびます

それは何でなんだろうと考えてみると、太陽の塔という物理的なものが1つと。あとは太陽の塔が高度成長時代の幕開けの象徴になっていると思います。これからの日本が

どうなっていくのか、後から考えたら、万博がきっかけだったというような、そういう万博になればと思っております。

○ 池田知事

続いて、藤本様、お願いします。

○ 四国旅客鉄道株式会社 藤本常務取締役

私どもとしては、2つほど立場があると思っております、1つは送り出す方の交通機関として。一番貢献できるのは気運醸成かなというふうに思っております、日々多くのお客様が駅をお使いになるということで、ポスター類も先ほど写真もありましたけれども、ああいった形で機運醸成の盛り上げには協力させていただいているところでございます。

もう1点は、外からのお客様をいかに香川に持ってくるか、もう少し言うと四国に持ってくるかということも考えておまして、以前少し申し上げましたけれども、大阪にいられたお客様を、特にインバウンドのお客様を、四国に持っていくための施策っていうのを、かなり具体的に今詰めているところであります。

今は具体的な内容を申し上げることはできませんが、頑張っておりますので、少し御期待くださいということで、それだけ補足させていただきます。

○ 池田知事

大変期待しております。

それでは時間になりましたので、議論を終了させていただきたいと思っております。

○ 事務局（政策課長）

本日は有意義な御意見、御提言をいただき、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第3回の協議会を閉会いたします。

なお、次回開催につきましては、事務局より、改めて御案内させていただきます。

会員の皆様方並びに万博協会堺井局長様、本日は御多用のところ、誠にありがとうございました。

※公益社団法人 2025 年日本国際博覧会協会による発言の内容等については、2024 年 2 月 14 日時点の情報であり、今後、変更の可能性がございます。